○議長（藤井 要君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前 9時55分）

○議長（藤井 要君） 一般質問の前に申し上げておきます。質疑、答弁は的確にわかりやすく要領よく行ってください。通告以外の質疑はできません。また、関連質疑は議長の許可を受け、質疑を続けてください。

質疑は一括質疑と一問一答方式、どちらかを述べてから質疑に入ってください。

それから、固有名詞等は発言に十分注意してください。

なお、本定例会において町長に反問権を付与します。反問権を行使する場合は反問の趣旨内容を示し、議長の許可を得てから行って下さい。

最後に、傍聴者に申し上げます。議場内ではお静かにお願いいたします。

◎一般質問

○議長（藤井 要君） 日程第5、一般質問を行います。

質問の通告がありますので、順次発言を許します。

◇ 高 柳 孝 博 君

○議長（藤井 要君） 通告順位1番、高柳孝博君。

（7番 高柳孝博君 登壇）

○7番（高柳孝博君） 壇上より質問いたします。

まず昨今の強い台風の被害に遭われた方々へのお見舞いを申し上げます。最近のメディアは、政局の行方と台風の発生の報道でコロナウイルスの報道が減少しているように思います。しかし、感染者はアメリカ・ブラジルについてインドが400万人を超えました。日本においても、増大のカーブは落ち着いてきているように見えますが、まだまだ、収束が見通せない状態が続いております。

一方で経済の回復が望まれるところですが世界的経済の全面回復までは、ほど遠いと思われれます。松崎町も経済的には人の交流の増大が望まれるところですが、高齢者が多くウイルスへの感染の不安が拭いきれないところです。そこで、感染拡大を防ぐために無症状者を含めた早期の発見体制と風評被害が発生しないように事前に考えておく必要があります。この

コロナウイルスという感染症の怖さは 病気が不安を呼び、不安が差別を呼び、差別がさらなる病気の拡散につながる負のスパイラルを生みかねないという点でございます。松崎町では、感染の拡大は、起きていませんがこの経験をBCP業務継続計画や総合防災計画の見直しに活かす必要があるとの考えで、その対策を質問致します。

1 番目は、ウィズ(with)コロナについて、感染について無症状の方の早期発見の対策をどう考えるか、感染者への風評被害防止をどう考えるかです。また、経済面ではワーケーション(Workation)、これは、ワーク・・仕事とバケーション・・休暇を組み合わせた造語で、リゾート地や地方等の普段の職場とは異なる場所で、働きながら、休暇取得等を行う仕組みです。この取り組みは、行われており、松崎町も民間では、国の施策にエントリーしているところがあり、官民一体となってその環境作りが必要と思われれます。ワーケーションの受け入れ側で具備すべき条件は・・、一つは安全で安定的なwi-fi環境です。二つ目はコワーキング的なものも含めた仕事ができる環境、また、住むところが必要になります。来る側から見れば職を含む生活環境が便利であることが重要であり、来た先の移動手段の確保がなければ、単なる陸の孤島に自ら進んでくることとなります。そこで、ワーケーションをどう考えるか、官民協力の考えはあるか、を問います。

次に、パンデミックとなったコロナウイルスは感染防止のため、自粛による経済活動への影響が大きく、救済のために国や県の対策だけではなく、町の施策も要望されるところです。しかし、財源の有無が自治体の支援策の足かせとなっている感があります。財源の確保として、ふるさと納税が有効と思われれます。また、不要な外出の自粛要請により、ネットによるふるさと納税が増えた所もあるそうです。そこで、町の財源として、ふるさと納税増大の取り組み、ウィズコロナでネットの売り上げ策があるか、ネットで売り上げが増えるような策があるかではありますが、これを問います。

2 番目に文化財の保存と活用について質問します。町には、外尾悦郎氏作品やその環境など観光の資源となっていますが、その保全と活用のために汚れや展示環境の整備計画はあるか。イベントなど、活用の取り組みがあるか。また、旧依田邸の保全計画は塀の傷みや展示の見直しについて、壊れの現状分析をどう考えるか、と修復の考え方を問います。

3 番目に、ICT活用教育について、学校で個々に端末が配布されることになり、教育にICTが浸透していくことがより鮮明になりました。世の中のデジタル化による生活変化に対応するために有効と考えますが、端末の配布時期、活用メニュー、予算化はどのようなものか。学校のギガ(GIGA)スクールの導入検討はどこまで進んでいるか。また、町にある郷土

資料のデータ化の考えはあるか。資料の量と検索の現状はどのようなものか。デジタル化の考えはあるか。郷土愛の醸成のために、資料の活用の考えがあるかを質問いたします。

壇上からは質問は以上です。以後は質問席に移ります。

(町長 長嶋精一君 登壇)

○町長(長嶋精一君) 高柳議員の質問でございます。大きな1つ、ウィズコロナの取り組みについて、そのうちの1つ、感染について無症状の方の早期発見の対策をどう考えるか。そして、感染への風評被害防止をどう考えるか、ということでございます。

お答えします。新型コロナウイルス感染症の確認のためのPCR検査等の行政検査については、基本的には、発熱などの症状のある方や無症状の方でも濃厚接触者などについては、積極的疫学検査が行われています。また、かかりつけ医の診療所等でも、症状や行動歴等で医師が必要と判断した場合は、検査ができることとし、早期発見に努めており、現在、賀茂圏域では、14診療所の協力を得て、検査ができる体制を整えています。さらに、厚生労働省で開発した新型コロナウイルス接触確認アプリ「ココア(COCoA)」や、企画観光課で導入した無料通信アプリLINE(ライン)の「まつざきほっとライン(コロナ見守りシステム)」を広く活用することにより、早期発見や感染拡大の防止に努めることも有効と考えます。

しかし、無症状の方を発見するのは大変難しいことですので、現段階では新型コロナウイルスに感染しないために、最大限の防止対策を行うことが重要と考えます。

そのためには、感染者が発生している地域への往來の回避や3密(密閉、密集、密接)を避けること、また、ソーシャルディスタンスの確保・マスクの着用・手洗いの励行や「新しい生活様式」などの周知・徹底を図ってまいります。

感染者への風評被害については、SNSやインターネット上で個人や家族、勤務先等を追跡・特定され、嫌がらせを受けたり、感染者や濃厚接触者だった方に対して、学校や職場が理解を示さず、速やかな復帰ができないなどの事例が報告されています。このような状況を踏まえ、8月25日には文部科学大臣から差別・偏見の防止に向けてのメッセージがありましたが、早速、町でもホームページに掲載し、周知を図ったところであります。感染者等に対する偏見や差別は、絶対にあってはならないものであり、悪質な偏見や差別の撲滅に向け、コロナに対する正しい認識の周知に努めるとともに、今後も、人権が侵害されることのないよう適切に取り組んでまいります。

ウィズコロナの2つ目でございます。ワーケーションをどう考えるか。官民協力の考えはあるか、ということでございます。

お答えします。この度の新型コロナウイルス感染症により、働き方改革、特にテレワークが推奨され、都市部では、多くの企業が出勤しない働き方に移行し始めました。出勤しなくて良いということは、どこでも仕事ができるということになり、都市から地方への人の流れのチャンスだととらえております。特にワーケーションという取り組みは、自然環境豊かな伊豆に合致した働き方と考えております。当町としてもテレワーク環境の整備など受け入れ体制を整えることも検討しております。既に「ふれあいと一ふや」を活用して、1名が実践しておりますので、今後も下田市や近隣自治体と協力し、推進してまいります。

ウィズコロナの3つ目であります。町の財源として、ふるさと納税増大の取り組みについて、それからウィズコロナでネットでの売り上げ策はあるのかというご質問でございます。

お答えします。当町のふるさと納税は、令和元年度において、1,336件、3,155万4千円となっております。近隣市町と比べ伸び悩んでおります。1つの原因としては、近隣市町のような加工業などの事業所がないことがあげられます。そうした中で、現在、多種多様な季節の果樹や、感謝券のような形での返礼品を随時創出し、納税額を増やす取り組みをしているところでございます。今後も、他にはない松崎ならではの体験ツアーの充実など選択の幅を広げるよう努めてまいります。

次に大きな2つ目、文化財の保全についてでございます。そのうちの1つ、外尾悦郎作品等で汚れや展示環境の整備計画はあるのかという質問でございます。

お答えします。ご質問の作品ですが、1つは民芸館入口の「ナシミアメント」という石の塔で、年月とともに味が出るようになっており、定期的な清掃は特に必要ないものとなっております。もう1つは美術館前にある「老人と子供」という白い大理石でできたもので、こちらは定期的な清掃を行っております。展示環境については、当時の施設のデザインから現在の環境となっておりますので整備する予定はございません。活用につきましては、スペインのサグラダ・ファミリア教会の芸術工房監督である外尾さんの知名度を生かしながら情報発信をして誘客に努めてまいります。

文化財の2つ目でございます。旧依田邸の保全計画は塀の傷み、展示の見直しについて、壊れの現状分析と修復への考え方は、どうかということでございます。

お答えします。旧依田邸の保全計画につきましては、昨年度、静岡県伝統建築技術協会に委託し、策定いたしました。全体的な補修をすると6億円程度かかると見込まれております。補助金等の活用も検討しながら計画的に修復してまいりたいと考えております。なお、今年度については、傷みの激しい正面玄関脇の塀を補修することとなっておりますが、国の

登録有形文化財になっておりますので許可が下りてから実施することとしております。展示物の見直しにつきましては、開館等を委託しております伊豆学研究会と調整しながら検討してまいります。

3つ目のICT教育関係につきましては、教育長よりお答えさせていただきます。

(教育長 佐藤みつほ君 登壇)

○教育長(佐藤みつほ君) それでは、町長から引き続き高柳孝博議員のICT教育についてのことについて、お答えいたします。

まず、1問目、端末配布時期、活用メニュー予算化はどのようなものかということでございます。

お答えします。ギガ(GIGA)スクール構想に伴う児童生徒用1人1台の端末は、今回上程する補正予算に購入経費と校内通信設備の改修工事の予算を計上しており、今年度内には、各学校に配備したいと考えております。文科省は、小・中学校においては、小学校の教科書改訂に合わせ、2024年度には本格的にデジタル教科書の導入を予定していますが、当分の間は、テレビ会議システムを利用した授業や、教科用のソフトウェアは、無償で提供されている学習用ツールや動画を活用するように呼びかけております。しかし、端末の操作方法につきまして、教職員だけでなく、児童生徒の側でも慣れが必要となることに加え、校内の通信設備工事も完了しなければ安定した通信環境が得られないことから、今年度中の今以上の授業への組み込みは、なかなか難しいのではないかと考えられます。有償のソフトウェアにつきましては、今後、学校側と協議し、予算化していくこととなります。

続いて2つ目の質問でございます。ギガ(GIGA)スクールの導入検討はどこまで進んでいきますかということでありませう。

お答えします。ギガ(GIGA)スクール構想につきましては、現在、児童生徒用1人1台の端末の配付と校内の通信設備の改修をメインに準備を進めております。購入する端末は、町内の学校の教職員の希望と、教職員の他市町への異動を考慮し、下田市、東伊豆町、西伊豆町と同じアップル社製のiOS(アイオーエス)の搭載された機器を購入するための準備をただいま進めております。できるだけ早期に入札ができるよう準備しておりますが、端末の購入につきましては、330台を購入する予定でありますので、金額的に議決案件となりますので臨時議会により売買契約を議決していただくこととなります。

3つ目の質問でございます。郷土資料のデータ化の考えはありますか。資料の量と検索の現状はどのようなものですか。デジタル化の考えはありますか。郷土愛の醸成の為、資料の

活用の考えはありますか、という質問でございます。

お答えします。郷土資料につきましては、現在、重文岩科学校内や図書館内に郷土資料用のブースを設置してあります。これらの資料は、重文岩科学校では展示ケースに入れられていたり、図書館内の郷土資料657冊は、市販されている印刷物とは異なり、貴重で貸し出し禁止のものが多いため、図書館内での閲覧に限られているものがほとんどであります。図書館に設置してある資料は、館内のタッチパネル式の検索用のパソコンでどの辺りにあるのか検索が可能です。すべての資料のデータ化は難しいと思われませんが、町史に関するものにつきましては、PDF化したいと考えており、町の文化財につきましても今後データベース化したいと考えております。学校や地域、家庭においても子供のうちから郷土について学び、親しみを持ってもらうためには引き続き、授業・総合学習などで資料を活用することも必要ではないかと思えます。

以上であります。

○7番（高柳孝博君） 一問一答でお願いします。

○議長（藤井 要君） 許可します。

○7番（高柳孝博君） まず、ウィズコロナの関係でございますが、感染の発見と風評被害の関係ですけれどこれは非常に関連しておりまして・・・、感染はもちろん三密を避けて防ぐんですけれどその感染した方たちが例えばクラスターを作ったとかそういった場合に、その方たちが、自分が症状が出ていなくても、もしかすると感染してるかもしれない・・・。これは十分、考えられるわけでございます。そういった時にその方がちゃんと認識を持って自分はクラスターの一員であるということをしかりしていただけるようなことが必要になるかと思えます。先ほどコアであるとかいろんなネットワークを使った検索というのがあるというお話でしたけれど・・・、ネットワークを使って確かにあるんですけど・・・、その方が意識を持って自分もさらなる感染を防ぐという意識を持っていただかなければ、なかなか表面に出てこない、ということも考えられますし、端末っていうのを必ずしも持っている方ばかりとは限らないので、そのあたり、やはり、少し、広報していく必要があるのではないかと思います。それから、風評被害についても、当然、感染されて治療して、治って、帰られてもですね、そこで、不安があるために偏見になるということがあるようです。そういったことがあってはいけないので・・・、まだ、松崎町としては、感染拡大しておりませんから現実の問題としては少し薄いかもしれませんが、事前にそこを考えておく必要があると思えます。その辺りはいかがでしょうか。

○健康福祉課長（糸川成人君） 感染者の拡大の防止につきましては、濃厚接触者につきましては、県の保健福祉センターの方からですね、連絡を受けまして、その検査対象になるかどうかというような聞き取り等をしながらですね、対象になればですね、無症状でも検査を行っていただくというような形で指導しているところでございます。そうした中で、賀茂圏域では、14診療所ということですね、その中でも、その、医師が、たとえば、医師が判断をして、必要だよと、行動歴等をみながら必要だよ、ということで判断した場合には、PCR検査のための検体を、そこで取っていただいて、検査に出すということも、賀茂方式といっていますけれども、そういう形で実施をする、なるべく多くの方を検査を実施するというところで、方法が、今、県の方でやっているところでございます。また、風評被害の方につきましては、確かにあの・・皆さんに正しい知識を理解していただくというのが、大変重要だと思いますので、これから広報等もやっていきたいと考えております。

○7番（高柳孝博君） 確か、メディカルセンターの方でも検査ができるようになったようなことをお聞きしてるわけですが、そのルートというのも、今まで通り、例えば、保健所、あるいは、お医者さんの方から直接行けるのか、そのルートの何か変更というのはあるのでしょうか。

○健康福祉課長（糸川成人君） メディカルセンターの方につきましては、抗原検査ということですね、唾液を採取して30分程度ですね、判定はできるという機械を導入してこの9月1日からですかね・・、運用しているところでございます。こちらにつきましては、当地域、観光客等が多いものですから、そういう方が来た・・症状が出た場合に、早めに判定をして病院のリスク、医師のリスクであるとか、観光施設のリスクをなるべく早く判断をして、なるべく少なくするというような形で、導入がされているところでございます。こちらの方の検査につきましても、やはり、県の帰国者接触者外来センターの方に相談をしてこちらの方の検査を受けるというような形で案内がされるということで聞いております。

○7番（高柳孝博君） 広報活動と・・、まだ、メディカルにしても、まだ、全部周知されているように思えませんので、また、是非、周知していただいて・・、まだ、感染が広がる前にやっておくことが必要ではないかと思っておりますので、その辺りをご検討いただきたいと思います。

続いて、ワーケーションの絡みですけど、経済的に非常に自粛とか何かしております。来客も先ほど報告の中でも、交流の人口というのが、減ってきてるというようなお話がありました。交流人口が減るっていうのは、松崎町としても非常に大きな痛手となるわけでござい

ますが、一方でワーケーション、いわゆるテレワークを含めて、これは、ある意味、私は、チャンスではないかと思っております。この町に定住していただける、良い所を知ってもらって、仕事をここでしていただければ、町から出なくても済む。先ほどの長期計画の中でも、移住の方が、増えていただくということで、人口減少を抑えるというようなお話もありました。そういった一つの中の施策として、是非、これを、進めていかなければならないという風に考えるわけですが、そのあたりいかがでしょうか。

○企画観光課長（深澤準弥君）　ご指摘の通りワーケーションという新しい取り組みですけれども・・・、テレワークというパソコンによって仕事ができるというのがIT、ICTの関係で全国でも、もう10年ぐらい前から、実は始まっておりまして、和歌山県や長野県では、その当時から、もうすでに、テレワークについては推奨していると・・・、その中で、今回、このコロナの中でですね、ワークとバケーションという新しい造語なんですけれども、こちらについても全国的に広がりを見せつつあります。その中で、今回は伊豆らしさというところできなければ、やはり、仕事する方々にとって、魅力ある場所が、1つの条件となります。それとともに、やはり、自分の仕事をする環境っていうのが、すごく重要で、今言った通信環境は当然のことで、それ以上に、そこにおける生活であったり、そういう時間の使い方であったり、いわゆる移動の環境であったりするのは、取り沙汰されております。その中で、官民協力の考えはということですので、新しい働き方の1つとして行政としても是非、民間の力を共同でやりながらですね、やっていければ一番よろしいかなと思っております。まず、その会社の方で、テレワークを認めているか、認めてないか、それによっても大きく異なりますし、そういった業態、テレワーク、ワーケーションが出来る業態というのが、まずは、1つの条件となりますので、そういった方々とのまずつながりを求めて、今、下田市近隣自治体とも連携をしながらそこを、今推奨している所でございます。

○7番（高柳孝博君）　今まで各地域においてもテレワークの検討をされているというお話でしたけど、なかなか、検討していただくで、なかなかそこに移れないってということだったと思うんですが、今回は、否応なしに、もう実施せざるをえなかった、というような所があって、コロナのおかげで、実証されたということで、様々な不具合、一方メリット、そういったものが、今回浮かび上がってきたように思います。土地ひとつとっても、都会の土地の価格の動き、それから、近隣のマンションなんかが、テレワークに適したような所を探して、実際に動いているというようなお話も出ております。そして、テレワーケーションに関しては、これはバケーションと組んでいますので、そういう意味では、ここは国立公園内にある

わけですので、環境省が出した、国の施策の中でも対象地域ということで、エントリーされてるわけです。是非、これを進めていただくと有効ではないかと思っておりますので、先ほどの・・・、条件を満たす為に、WiFiとかいうのは、既にもう光が来てますからこれは、多分、そんなに、難しくなく、満たすことができる。それからワーキング的になっていうのは、これはかなり、やはり、共同的に場所を使うとか会議室を使うとか知らない人が使うとかそういうようなことになりますので、少し、考慮してあげなきゃいけないかなと思うわけでございます。そして、住む所、これは、まさに、空き屋バンクを使っていただくチャンスじゃないかというふうに思います。ホテルとかなんかを使ってね、ホテルなんかもその一室を使ってテレワークに提供するということが起きているわけですが、実際に我が町においては、空き屋が多分100軒くらいはあるわけですので、その辺りが活用できるようになればいいかなって思います。あと、もう1つ、やはり、大きなところは、交通の手段、食べるための手段、そういったものを少し考えて、何を満たしてあげたら来ていただけるかというのを計画をしていく必要があるかと思っております。その辺りの考えはいかがでしょうか。

○企画観光課長（深澤準弥君） 交通手段につきましては、来る方のいろんなアンケート等でも出ているんですけども、自分が例えば買い物に行く時に徒歩で行けるのか、公共交通機関を使って行かなければいけないのか、そういった場所の選定っていうのは、当然、選択の中に一つ入るということです。よく八ヶ岳とか長野に行ってる方で、やはり、そこへ1人でテレワークで住んで、お試しでやったりした場合に、やはり、それだけだと何もないと、自然があるだけだと、何も、魅力は半減するというようなこともございますので、今言った形で、実は今進めようとしているワーケーションというか、テレワークにつきましては地域の人や企業と連携をしながら、地域で役に立つようなものを与えられるような誘客を進めていくといったことを今、検討しております。特にそのワーキングスペースということですが、中にはシェアオフィスのようなところではやはり働きたくない、やはり仕事の業務を個々でやりたいという方もいらっしゃいますし、そこについては、ニーズに応じたものを提供できるように今後していければいいなと考えてございます。

○7番（高柳孝博君） やはり、計画がない所にはD○はないわけで、計画っていうのを1回立ててみて、それでいけるかどうかというのを議論しながら進めていくという所まで・・・、実際に動く所で、考えていただきたいと思っております。それから、実際に、エントリーしている方もおりますので、その方たちとも・・・、例えば、交流をとってみるとか、そういったことも必要ではないかと思っております。それで、計画をしっかり立てていただいて、当然これは予算

をつけないとできませんので、本来は、総合計画の中の実施計画の中に載せてくると、やっていくのかなと思いますけれども、そのあたりまで踏み込む考え、いかがでしょうか。

○企画観光課長（深澤準弥君） 今現在その計画に載っかっているだけでなく、今のこの新しい働き方の中で進めておりますので、その中では、今言ったように企業が環境省の関係でということで、お話ありましたけれども、南伊豆町でエントリーをされてる松崎の事業所さんもございます。松崎の事業所も、もう一つありまして、2社がエントリーしているような状態でございます。そういったところは、一緒に、こうサポートしながら行くところでございますが、やはり、その、来る側の企業さんとのネットワーク、もしくはつながりを求めることができなければ、まずは競争のステージに登れないというところがございますので、その部分について今いろんな形で、先ほど申し上げました通り近隣市町自治体等と連携をしながらですね、もしくは、近隣の企業さんとのつながりを今求めて、つながりをつくることを今始めてございます。

○7番（高柳孝博君） 前日も申し上げましたけど、ギグワークっていうか、個人でもって仕事を請け負ってやるっていう事は可能になるわけですよ。その市場がありますので、そのあたり個人で来て仕事を請け負う方が、何がニーズとして必要なのか、そういったことも誘っておいて、何かそこにプレミアムを何かつけてあげるとかしてですね、来やすい状況を作ってあげる、そういったことも必要ではないかと思えます。そこは、いかがでしょうか。

○企画観光課長（深澤準弥君） 当町では潤沢な財源があるわけではないですので、やはりその、例えば、住む場所や働く場所の提供っていうことが、なかなか難しいのかなと思っておりますが、来る民間企業について意見を聞きますと、そういうものが必要な所とそこは別に自分たちの資産の中で運用できるよという所もございますので、そういった中での精査をして、来ていただけるか・・・、企業さんを、是非、呼んでいきたいなと思っております。今言った個人の事業主で個別に仕事を取るっていうのは、これはまた、なかなか、大変でございますね、今、実際に松崎町にいる方なんかは、そういった形をしているんですが、所属は一応会社に入っております。フリーランスでやるっていうのは、相当やはり厳しい状況で、今回もコロナでフリーランスの方が、ほとんど事業がなくて、困っているっていう現状がございますので、そういったもので考えた場合、やはり、ある程度、安定した形での誘客、ワーケーションって一言で言いますが、ワークとバケーション、バケーションが必要な方っていうのを、ばかりではないということで、色々検討する必要があると思っておりますので、そこについては情報をかなり収集して、その上で、ネットワークの構築をしながら、こ

ちらに来ていただく算段をしていきたいと思っております。

○町長（長嶋精一君） 移住についてですね、現在は、フォローの風というか、追い風が吹いているように思います。広報まつぎきの今月号、私が「町長室からこんにちわ」で書かせていただいたんですけども、都会から来られた方が、もう、数年経っているんですけども、本当にこの町に来て良かったと言うようなことを私は率直に書きましたけれども、そういう人が多くなると良いなというふうに思っています。そして今、企画の課長が話がありましたけれども、今度は若い人たちの・・・、壮年者の働く場所とかそういった事はですね、あらゆるソフト面を使いながら、進めてまいりたいと思っております。そして、これ、前から私がある町民から聞いた話ですけども、この町は年を取って車の運転ができなくなると買い物にも行けなくなる。病院にも行けなくなるというような町。そして、また、その病院も少ないということを私に話してくれた方がおいでになります。従って町としては、買い物支援タクシーを出して、そして診療所も開業してもらおうじゃないかというようなことで運動してるわけです。ですから、まあ、私どものやっていることは、どちらかと言うとハード面なんですけども、それに、企画の課長が話をしたソフト面を絡めてですね、あらゆる角度から、移住の方々にウェルカムというような体制を作ってもらいたいとこのように考えてます。以上です。

○7番（高柳孝博君） 時間もありますので、先ほど財源の話が、まさに財源がないと何もできないっていうところにあるわけですけど、ふるさと納税が本当にその点では有効であるというふうに考えます。実際にふるさと納税、残念ながら5千万円の目的が達成できなかったんで、今回4千万ぐらいの目標になってしまったわけですけど、現状の分析をもう少し・・・、なんで、来ていないかという中で、先ほど加工をする所が少ないからメニューが少ないんだって話がありましたけれど・・・、もっと、その、無い部分をどう埋めていくかっていうことをしっかりやってかないと増えていくってことはできない。他の市町でも自分の所で作った産品だけではなくて、あるいは加工っていうことを考えて新たなメニューとかを考えて、ふるさと納税のメニューとして成功してるって事あるんです。なかなか自分のところだけの産品だけでは、ボリューム、量と質についてまかないきれないという所もあると思いますので、そのあたり、もう一度、分析していただいて、何で隣の町と違うのかってのを・・・、あるいは、隣の町じゃなくても良いですけども・・・、何億という・・・している所とどう違うのかという事を・・・、そこへつけるためには、1千万円増やそうということと1億円を増やそうということと、施策は当然変わってくるわけでございますので、その辺りも

う一度検討していただけたらというふうに考えます。いかがでしょうか。

○企画観光課長（深澤準弥君） ふるさと納税につきましては前一回、こういった形で伸び悩んでいる状況を報告させて頂いております。さきほどの回答の中でもありました通り、近隣市町、南伊豆町、西伊豆町そして東伊豆町の伸び率が高いのは水産加工品でございます。水産加工場があるために今言ったように、魚を余所から買っても加工することによって水産加工品としてふるさと納税の返礼品として掲出しているのが現状でございます。我が町につきましては、今言った、水産加工場もそうですしいわゆる、そういった工場といったものがないところではございますが、生産者、農業品なんかは、こちらにあると、果樹なんかは結構人気があったりします。当然、ワサビについても、今、人気がございます。ただ、そこについても、いわゆる通常の流通に出す部分とふるさと納税に出していただける分のやっばり、キャパがありますのでそこを増大していかなければ、なかなか、ふるさと納税に品数が増えてかないというのが現状でございます。ただそれを、嘆いているだけではなくですね、今言ったように、他の全国の市町村を含めていろんな分析をしていく中では、やはり町のやり方によってはソフト部分ですね、例えば商店街の街灯をふるさと納税で集めるといったようなことをやっていたり、いわゆるソフト部分で、町の公園を作ったりとかそういったものに対する目的をもうちょっと絞った目的別のふるさと納税っていうのがございますので、そういったものをいろいろ検討しながらですね、あとは先ほど高柳議員からご指摘あったように、インターネットでの申し込みになるのがほとんどですので、その部分での発信方法、今回、楽天等も増やしたりはしてございますので、インターネットやればいいってことではないので、まずはそういったところに松崎町を探していただけるような発信をすることが、観光にも共通する部分でございますけれども、必要と言うことで、今取り組んでるところでございます。

○議長（藤井 要君） 高柳君に申し上げます。残り時間、延長を入れても8分しかありませんのでよろしくをお願いします。

○7番（高柳孝博君） 時間が無くなりましたので、文化財と保全の関係ですけれど、先ほど外尾氏の作品が経年の価値もあるということでしたけれど、私がちょっと心配なのは、そのおいてある周りですね、周りに例えば錆びている椅子があるとか、マストみたいな作りのものが錆びていたりとかいうことになると若干、景観上良くないかと、展示してある所、せっかく当初予定したものと少しずれてくるんじゃないかってこと心配してますのでその所を是非、考慮をお願いしたいと思います。

時間が無くなってきてますから、依田邸の保全については文化財ということでやっていただけるといことで、温泉が入れるようになった時には是非直っていでですね、立派な式典があるかどうかはわかりませんが、是非、オープンする時には、そのあたりも直っていで、しかも前の旧依田邸にあったデザインでそのまま生きてくるということを考えていただけると、いいのかなって思いましたので、質問させていただきました。是非、そのあたり、考慮いただきたいと思います。

それから3番目のICTの活用で教育長の方からお話いただきました。2点ほどあるんですけど、1点はプログラミングをやろうということがでていまして、小学校のプログラミングを何を使うかというようなことは今考えられてるのでしょうか。

○教育長（佐藤みつほ君） プログラミングを同時進行で、今、端末を色々なこと、一緒にやっていますけれども、まず担当が理科とか、そういうことに堪能な方がいられるので、その理科の授業に対する授業を中心にしながらやって行こうかなということが研修課題になっております。同時に、やはり今、色々テレワーク等の防災教育を文科省の指定で頂いているので、この間もテレビ会議でお話をしながら、オンラインでやったなんてこともありまして、色々な教材はいっぱいありますが、それをどういうふうにして消化していくかというのが、私たち教職員とかあるいは教育委員会とか色々な問題もございまして、そのプログラミングは去年から言われていますように、理科が中心に教材としてやって行こうかなという方向に今流れております。

○7番（高柳孝博君） プログラミングでは、今非常に、プログラムするためのソフトってのあるわけですね。それが非常に、今、簡単になって、ブロックを組み立ててできるスクラッチという名前のソフトとか、そういったものがあって、実際に小学生がもう稼いでいる時代で、ゲームを作って稼いでいるとか、そういったことになっていますので、そのプログラムの中で実際に、そういった開発のソフトには・・・、そこまで、実際にプロがやるものではなくても簡単にプログラムを作って実際の対象物を動かすということはできますので、その辺りの所はどういうふうを考えてられるのでしょうか。

○教育長（佐藤みつほ君） そこらへんは、やはり、継続して横断的についでいうんですかね、色々な教科へと・・・、ただ理科を中心にしながら他の教科に行ったり、あるいは総合的な学習のものへと行ったりとかその質問がありましたように、郷土を知るといのか、そういうような観点で、全て、プログラミングもテレワークもそれぞれがこう一致して同時進行で行くようなところもあつたりで、それをいかに消化していくということがあつたわけですね

も、そこら辺は、やっぱり、総合的に今やっているところであります。

○7番（高柳孝博君） 使われているソフトの名前を教えていただければ、自分の方も少し勉強できるかなというふうに思ったものですから、是非、わかったら教えていただきたいと思えます。

それからもう、最後になってしまうと思うんですが、資料のデータベースの話ですけど町にたくさん今まで郷土史の編纂資料室ってのありまして、ずっと作ってまして、たくさんの資料が残っているように聞いてます。たしか、その中に古文書とかそういったものもあるようなことを聞いていますので、図書館とかそういったところで検索はできるんですけど、実はこういうネットワーク時代になってくると、国立の図書館でもそうですけれど、中身までがちゃんとデータのデジタルで見る、ネットワークで見ることができるといようなことはおきてきています。そういった意味で、どこかでデータベース・・・、デジタル化しないと検索ができないんです。図書館の中で検索してそれを研究して自分のものにしていこうという方たちが現れたとしても、なかなか難しい、貸し出し禁止って事になるとなおさら難しいということになります。そこはデータベースになってオープンにできるものは簡単に古文書等が****、そして古文書そのものは、出さなくても傷む事はできなくてしっかりしたとこに保管する。そして、データそのものは、誰でも使えるようにして頂けると更にその資料の価値が上がるのではというふうに考えますので、是非、これは***がかかるし、お金もかかる話ですので、簡単にいきませんが、少しずつ、少しずつでも良いですから、重要なものから先にやろうかというようなことで、是非、今まで貯めたものすごく**とお金をかけて、実際に松崎の歴史とかそういったものもたくさん出されています。それらはそのまま眠ってしまうのは非常に残念に思えますので、是非、少しずつでも進めていただけたらというふうに考えます。計画をお願いしたいと思えます。

以上で私からの質問は終わりたいと思えます。以上終わります。

○議長（藤井 要君） 以上で、高柳孝博君の一般質問を終わります。

暫時休憩いたします。

（午前10時47分）